レッスン：36“Ｍ”

テーマ：意味

MAC36.MEN

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たち。私たちは常に主、絶対、聖なる神に抱かれています。

過去において、私たちは実存の諸世界における様々な波動、意味、人間が作り上げたものについて話しました。それらの意味の中には、実存の様々な諸世界の中での様々な次元の意味であるものもあります。それら実存の諸世界にはLifeの現象の現われがありますが、Lifeそれ自体の現れはありません。それらの意味は無知の結果であり、意識が限界、制約のなかに取り込まれた結果です。

過去に述べたように、一次元は抽象的なポイント、点であり、そこには意味の創造はありません。二次元に関しては、表面に点を置きそれを表面の特定の方向に動かすことによって、あなたはイメージを創造します。これが、一般に二次元の意味として理解されているものです。

私たちが理解している三次元は表面ではなく、あらゆる方向への点の動きによって定義され、そのようにして意味の空間内においていかなる形でも体積のイメージを創造します。

四次元、五次元はどうでしょうか？四次元は空間の意味による制約からの解放です。それゆえ、四次元においては空間の意味はもはや存在しません。多くのものがそれぞれの波動あるいはそれぞれの存在に干渉することなく、同じ空間/同じ場所を占めることができます。実際、四次元は三次元のような多くの境界、制限はありません。私たちはどこで四次元の意味に出会うのでしょうか？サイキカル界のサイキカルな波動においてです。

五次元はどうでしょうか？五次元は時間の意味からの自由です。もはやこの意味の制約はありません。この意味の制約なしで何が経験できるのでしょうか？この意味による制約がないと、意識であるセルフ・エピグノシスの動きは現在にあり、フォーカスする対象を体験するには単にそれにフォーカスすればよいのです。フォーカスする対象を理解するために結果的出来事は必要ありません。全ては永遠の「今」にあります。要するに、様々な次元の意味は、Lifeの現象内の限界のなかに意識が取り込まれた結果なのです。

人間が無知にある間に創造した他の意味についてはどうでしょうか？確かに、人間は実存の諸世界において他の多くの意味を創造しています。

なぜでしょうか？その理由は、Lifeの現象の諸世界ではそれらの意味を創造・表現することなくして、人間は自分が存在することを理解できないからです。私たちは今、Lifeそれ自体によってLifeの現象に与えられた二元性の意味あるいは対立する二極、およびそれらの意味を創造する能力について触れています。

確かに、私たちには二元性という質があり、その能力ゆえに対立する二極という意味を創造しています。私たちは善悪という意味を持っています。黒白という意味、寒暑という意味など。それら全ての意味は必要なのでしょうか？必要です。なぜなら、人間にとってそれは観察と比較によって自分の存在を解釈し、理解する唯一の手段だからです。実際、私たちは実存の諸世界においてLifeを理解するために、多くの波動、意味を作り出しています。

マインドの様々な波動についてはどうでしょうか？以前のレッスンで述べたように、様々な波動のマインドがあります。マインドとは、それを通じて実存の諸世界全てが築かれ、それを通じてLifeの現象が存在する手段の現われです。私たちが「手段」と言うとき、その現れはどこから来るのでしょうか？神から、絶対存在からです。しかし、手段としての現れがあるということは、それらの手段は絶対存在の本質の中にあることを示します。無から生じるということはありません。結果があるためには、その原因が常にあることを意味します。

Page2

以前のレッスンで述べたように、

スーパーサブスタンスとしての、

サブスタンスとしての、

超物質としての、

そして物質としてのマインドがあります。しかし、それらの波動は人間の創造したものではありません。それらは絶対存在の創造であり、人間は現れとしてそれらマインドの波動のなかで動いているのです。

スーパーサブスタンスの波動のなかでは人間は魂のセルフ・エピグノシス、Lifeそれ自体として現れています。さらに、Lifeの諸世界とは四つのヘブンであり、つまり元型、イデア、法則、原因の諸世界としてのノエティック界です。それらの世界ではLifeの現れは意味を創造するのでしょうか？答えはノーです。Lifeはそれ自体を表現するのに意味を必要としません。なぜなら、Lifeは同化の特質と質を表現しています。というのも、それらの諸世界におけるLifeは最内奥の特質を完全に現しているからです。

Lifeの現象についてはどうでしょうか？無知のなかにいる私たちが何かにフォーカスすると、その何かについて学び、理解するためには、それをそれ以外のものと比較する必要があります。私たちはたとえそうと意識しなくても、絶えず比較しています；そうと気づかずに二元性を使っているのです。

確かに、私たちは進化・成長によってそのような現れのステートに達することができ、その結果、観察によって観察する対象の全てを知ることができます。しかし、その観察する対象物になることはできません。なぜなら、同調は実存の諸世界における最も高いレベルの現れですが、同化は生それ自体の世界のものだからです。

最も高い現われとはどういう意味でしょうか？それは素質的可能性のサイクルから現在のパーソナリティーに与えられるものです。それは現在のパーソナリティーが自己実現に到達し、その諸体をマスターした時にのみ生じます。

次元および他の全ての意味は、意識であるセルフ・エピグノシスが制約のなかに入った結果として、実存の諸世界にいる人間が創造したものです。しかし、ノエティック界には次元もなければその他の意味もありません。善悪という意味についてはどうでしょうか？サイコノエティカルな進化に伴って、全ての意味は変わっていきます。善の意味に関しても、昨日は許されていたものも今日は許されないかもしれません。たぶん現れとしての現在のパーソナリティーが調和の法則と完全に同調するようになり、絶対善のみを表現するステートに到達するまでは、善の意味は変わり続ける、ということを受け入れる必要があります。

ですから、次元、意味は無知の結果、二元性の結果ですが、これら実存の諸世界にいる人間もまた同時に問いと答えなのです。この現れもまた二元性の結果です；人間はそのようにして自分の存在を理解し、それはまた意識であるセルフ・エピグノシスが時間と空間のなかでその動きを認識する方法でもあるのです。仮に二元性のそれらの表現の一つがなくなったら、人間という現象は植物のように存在するステートに入ることでしょう。

実存の諸世界、三次元の諸世界において人間はサイキカル界およびノエティカル界といった他の実存の諸世界にも自分がいることを認識しているのでしょうか？いつも繰り返していますが、Lifeの現象、現在のパーソナリティーとしての人間には三つの体があります。肉体、サイキカル体、ノエティカル体です。マインドの三つの異なった波動による三つの体です。

「三次元、肉体にいるあいだ人間は自分が同時に他の次元にも存在していることを認識しているのでしょうか？」という質問を繰り返すと、その答えはノーです。マインドのゆえにそれを認識できないのでしょうか？そして、マインドのゆえに人間は自分自身を完全に現すことができないのでしょうか？違います、マインドが原因ではありません。原因は制約、限界のなかに取り込まれた結果としての意識です。

以前に、私たちは人間の意識を本能的意識のセルフ・エピグノシス、潜在的意識のセルフ・エピグノシス、意識的意識のセルフ・エピグノシス、超意識的意識のセルフ・エピグノシスに分類しました；そうです、Lifeの現象として、現在のパーソナリティーとしてLifeの現れの様々なステートがあります。そして限界、制約のなかにいる間、その現れは五感を使用して行われ、その五感は物質という低次のマインドのバイブレーションの中で表現されます。それは下向きの五芒星によって示されています。

Page3

サイキカルおよびノエティカルな波動のマインドの中では、人間のサイキカル体およびノエティカル体ともその表現の手段として五つの超感覚を使用します。

無知のなかにいる間、現れとしての現在のパーソナリティーは五感を使用しますが、しかし、たとえ物質のバイブレーションの中にあっても五つの超感覚を使用する能力は持っています。

私たちのサイコノエティカル体は現在のパーソナリティーに五つの超感覚を使用する能力を提供していますが、人間が地にフォーカスしている間は地上において人間は五つの超感覚を使用せず、五感だけを使用しています；それゆえ人間はこれらの次元、物質界にいる間に他の二つの体を使用していることに気がつかないのです。無知にいる間は意識であるセルフ・エピグノシスは、肉体からサイコノエティカル体という別の二つの体に橋が架けられていないのです。

人間が啓発に向かって進むにつれて、徐々に、ゆっくりと人間は地にフォーカスすることを止め、現在のパーソナリティーを構成する諸センターは徐々に分離し始めます。ハートを三つの体の共通のセンターとする代わりに、ノエティカル体のセンターは頭へと上がり、肉体のセンターは太陽神経叢へと下がっていきます；これらの分離の結果として、パーソナリティーはサイコノエティカル体の現れをもっともっと経験するようになります。

まず始めに、私たちはどのようにしてこの体（＊サイコノエティカル体）の現れを経験するのでしょうか？夢をだんだん多く覚えていることによって、夢の中で出来事を創造することによって、出来事の論理的な続きを夢のなかで体験することによって、そして勿論超意識のセルフ・エピグノシスの最初のレベルを表現することによって、です。

次に、これらの次元においても現在のパーソナリティーとして五つの超感覚を使用し、それによって肉体から他の諸体へと意識のセルフ・エピグノシスの橋が架けられるようになり、諸体のマスターが達成されたとき、諸体の形の再形成が完了します。

諸体の再形成が完了したとき、そのパーソナリティーは肉体からサイコノエティカル体を分離させることができ、サイコノエティカル体をもう一つの体として使用し、創造界の中を自由に移動することができるのです。マインドの様々な波動、物質化と非物質化をマスターし、自由に移動します…奉仕という唯一の目的のために。

前に話したように、創造界にはマインドの様々な波動があり、私たちはそれらの波動を手段として自らを表現し、その波動は私たちが現れの制約、無知のなかに取り込まれる機会を提供し、同時にまた無知という制約から自らの現れを解放する機会をも提供しているのです。

しかし、マインドは私たちが無知の中に取り込まれる原因ではなく、私たちは単にマインドを使用しているのだという事実を覚えておく必要があります。マインドは創造されたものであり、Lifeそれ自体ではありません。しかし、人間はそうとは自ら認識していませんが「生」(Life)なのです。ただ、Lifeの現象として現れている間は、人間はLifeの特質を表現していません。

私たちは常に主、絶対、神の聖性によって包まれています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

質問

**質問**：五つの超感覚について、およびそれらの超感覚を達成する方法について説明していただけませんか？

**Ｋ**：私たちが知っている五感は視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚です。五つの超感覚は超意識のステートに記されています。人間が五つの超感覚を現すためには、現在のパーソナリティーの諸体について、**気づきのレベルについてワークして、肉体からサイコノエティカル体へと意識の橋をかける必要があります。**

これはテクニカルな手段、つまりパワーと能力を表現するための魔術とみなされる特定のエクササイズの利用などによっては達成されません。確かに、それらは何らかの能力とパワーを現すためには役立ちますが、それらは魔術として分類されています。しかし、そのような表現は気づきの上昇をもたらしません；それは進化・成長の結果として現れるのではありません。

**超意識を真に現している人々は、時間・空間の意味という制約なしに自分の現前で「今」起きている出来事を目撃することができます。**

**質問**：あなたが自分の五つの超感覚を使用したいと思うときには、波動のレベルを変えなければならないのでしょうか…？

**Ｋ**：そうです、しかしそれは現在のパーソナリティーの現れの波動が変化すること、つまり気づきの上昇の結果である必要があります。それ以前においては、あなたは五つの超感覚を意識的に使用することはできません。私たちはそうとは知らずに使っています。サイコノエティカル体はこれらの超感覚を使用しています。しかし、現在のパーソナリティーとしては、現れとしては、私たちはそれに気づいていません。なぜなら、私たちの意識の橋が架けられていないからです。それはつまり、物質、粗雑な物質界において、私たちは五つの超感覚を現れとして真に使用していないということです。

夢のなかでは、サイコノエティカル体は五つの超感覚を使用する波動ですが、現在のパーソナリティーは五つの超感覚を使用しません。なぜなら、それまで知っていたのと同様に周囲全てを創造することによって、それらの次元（＊物質の次元）にいるときと全く同じように生き続けるからです。そのようなことが起こるのは夢の中だけでなく、肉体の死という現象によってパーソナリティーがこの世界を離れてサイコノエティカル界のなかの適当なレベル（気づきとしてそのパーソナリティーが属するレベル）の波動に入る時にも生じます。私たちが「そこに」行くときには、私たちは自分自身の周囲、自分自身の世界を築き、全てを自分が以前に知っていたとおりに築きます。さらに、自分が知っていた全てのパーソナリティー、愛していた人々をも創造します。（＊死んでも）私たちは背後に誰をも残しません。そしてそこで人々（＊死んだ人が創造した人々）は前と同じように意識のセルフ・エピグノシスとして行動しますが、ただ私たちが（＊死んだ人が）それらの人々を創造したにもかかわらず、人々は私たちが（＊死んだ人が）望むように行動するわけではありません。自動的に（＊創造された）人々は、人々が意味するそれぞれのパーソナリティーと結びついているのです。ですから、私たちがそこに行くときには、私たちは背後に誰かを、何かを残して行くわけではありません。さらに生憎と、物質の波動の中にいた時のような制約がもはや存在しないことに気づかないので、五つの超感覚をあたかも五感のように使用します。言い換えれば、サイコノエティカル体は五つの超感覚を使っているのですが、実際には私たちの現れは制約、限界というイリュージョンを用いているのです。

**質問**：私たちにはサイキカル体とノエティカル体があるのでしょうか、それともサイコノエティカル体という一つの体があるのでしょうか？

**Ｋ**：私たちは二つの体を一つとして使っています。なぜなら、私たちはサイキカル体をノエティカル体とは分離した別の体の現れとして使うことができないからです。しかし、進化・成長すると私たちはサイキカル体を同化することができるようになり、それを背後に残すのではなくノエティカル体とひとつにして、他の惑星を訪問するためにノエティカル体を（＊肉体とは別の）完全に分離した別の体として使うことができるようになります。それは、唯一助けを与えるために、そして法則それ自体がそれを要求するときにだけそうするのです。

私たちの地球および他の惑星はマインドのスーパーサブスタンスの中を泳いでいます。それが創造界において全ての天体を結びつける唯一の手段だからです。物質、超物質、サブスタンスなどの他の全ての波動は特定の天体のヒポスタシス（＊状態）の制限のなかにあります。

例えば、もし私たちが火星を訪問する場合、サイキカル体は高次ノエティカル体のなかに同化しますが、火星上で現わすためにはパーソナリティーはノエティカル体をまとうためにマインドのより低いバイブレーションであるサブスタンスを使用し、サイキカル体をまとうために超物質を使います。また、もしパーソナリティーがさらに低いバイブレーションで現れる必要があるときには、その惑星の物質の波動を使います。

**質問**：もし私たちの太陽系の地球以外の惑星に人類が存在するのなら、私たち地球と比較したそれらの惑星の進化状態を教えてください。また、それは創造界のセルにどのように反映されているのでしょうか？

**Ｋ**：ええ、他の太陽系にも生命があります。そして私たちの太陽系に関しては、地球は気づきのレベルとしては一番低い状態の現れです。創造界のセルである生命の木は大宇宙、中宇宙、小宇宙を意味しており、最小のものおよび最大のものの構造です。

いかなる存在物であれ、その一つの原子を見て見ると、そこにはこの構造があります。その構造によって原子の調和が保たれているのです。本質として不安定な分子構造の原子がありますが、それらの原子構造に干渉が加わると、いわゆる原子爆発が起こりますが、その爆発は原子構造の調和を保つパワーに匹敵します。

このマトリクス（＊母型、鋳型）は人間、植物、太陽系、銀河、超銀河などにも当てはまり、実際に創造界全体がこのセルの上に築かれているのです。

私たちの太陽系に関しては、惑星地球として私たちは非常に大きい、非常に広大な道のりをカバーし、歩んできたと言えます。何千年、あるいは何百万年も私たちがこれから進まなければならないかは重要ではありません。時間とは何でしょうか？何ものでもありません。意識のセルフ・エピグノシスとして私たちがあまりにもゆっくりと動いているので、私たちは時間というものを理解しているのです。人間が自分の超意識のセルフ・エピグノシスを表現し始めるとき、その時初めてその人は時間は存在せず、単なる意味にすぎないことがわかるのです。私たち一人ひとりはそれに気がつかずに、それを経験しているのです。記憶とは何でしょうか？あなたが過去を振り返り出来事を思い出すと、遥かに速いスピードで出来事を体験しますが、その能力はどんどん速く表現されるようになり、ついにはあまりにも速くなり全てが現在になるのです。

**質問**：もしあなたがこのサイコノエティカル体および高次ノエティカル体を発達させると、肉体はどうなるのでしょうか？肉体はどんどん衰えていくのですが…。

**Ｋ**：あなたは肉体を背後に残します。眠っているとき、あなたは肉体を背後に残して他の二つの体を分離した体として使って移動します。あなたは意識のセルフ・エピグノシスとして助けを提供するために必要なところへ移動します。その時、あなたは見えざるヘルパーとして移動しますが、そうするためには眠っているときに肉体を背後に残して行くのです。確かに、肉体を去ることなしに別の投射能力を使うこともできます。誰かと話している時でさえ、あるいは同時に多くの場所へ投射することもできます。そうすることによって、肉体を去ることなく、あなたが前に集中していたものを去ることなく、同時に７つの場所、10の場所に自分自身を投射することができます；投射する場所の数に制限はありません。勿論、サイコノエティカル体を肉体とは別の体として使い、あなたのサイコノエティカル体と同一のものをたくさん作るのです。あなたが好きな数だけ創造し、それら全てのなかに同時に存在するのです。

例えば、あなたが10の同一体を持つとしましょう。その中のどれが「オリジナル」の体だか区別できるでしょうか？いいえ、その現れにおいては違いはありません。超意識のセルフ・エピグノシスの中心はこれであり、他の全ては創造されたものである、と言う事はできません。なぜなら、それらは全て同じだからです。それは多様性の能力であり、それはインナーセルフから現在のパーソナリティーに与えられたものです。なぜなら、それは私たちの本質だからです。多様性としての絶対存在があります；絶対存在、神はひとつですが多様性のステートとして「ひとつ」であり、そのためモナド・セルフには多様性の能力があるのです。以前に、他の惑星、他の太陽系あるいは銀河を訪問するためには波動を高めなくてはならないと述べましたが、他の惑星などを訪問するために、必要な数の同一のノエティカル体を投射するときに使うのはこの多様性の能力なのです。

**質問**：その人はそれら全ての場所の記憶をもっているのでしょうか？

Ｋ：勿論です。しかしそれを行うとき、私たちは実際どこに行くのでしょうか？自分自身の中です。なぜなら、全ては全ての中にあるからであり、それらの訪問は助けを提供するために超意識的に行われるのです。あなたが高次ノエティカル体を使っている時、全ては全ての中にあり、今でさえ、この次元の中でさえ全ては全ての中にあるのですが、私たちがそれを認識していないのです。

私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA MAC36/SE/PYRM11.KE4